

下地小学校の ESD 活動

＜活動の概要＞

- ・「地域や友だちとかかわりながら学びを深め、分かち合う下地っ子」を目標に、体力づくり、姿勢や心の健康づくりを中心にした保健指導に力を入れている。
- ・ ESDを「心身の健康増進」の観点から、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することと捉えている。
- ・本校は「大いちょうプラン」として4つのプラン、①体をみがく ②心をみがく ③頭をみがく ④命を守る として、子どもたちが自ら健康課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動できるようにするための活動や学習を進めている。

・活動の実際

①体をみがく～「健康な生活をつくる」「運動に親しむ子」～

健康教育に重点を置き、よりよい生活習慣が身につくように、バランスのよい食事・睡眠時間・メディアの時間などの見直しを継続して行った。学校保健委員会でも、専門家に姿勢や歯磨きの大切さなどを指導いただき、子どもたちの意識を高めてきた。年間を通して、目標をもち運動に立ち向かう子を育成するために、下地っ子体操、器械運動、長なわ月間、チャレンジマラソン、短なわ強化月間などを、継続して行ってきた。その結果、休み時間には運動場に出て積極的に体を動かす子や自分の目標に向かって継続的に練習を積み重ねる早寝早起きの習慣がついてきた子などの成果が表れている。



マット運動月間（器械体操）

②心をみがく ～「自他を大切にすることを育む子」～

ぎんなん活動（たてわり班活動）の充実、あいさつ運動の実施、「いいね！」見つけの充実を図ってきた。ぎんなん活動では、異学年の子どもたちがふれ合うことで、高学年のリーダー性や思いやりの心を育てることができた。また、「いいね！」見つけの活動では、全校から集まった「いいね！」の♡を掲示し、「いいね！」を共有することで豊かな心を育てている。

③ 守る活動 ～「安全安心な学校づくり」～

防災について年間計画を立て、避難訓練を中心に、地震、火事、津波、不審者対応訓練など、地域に根差した安全教育を行っている。とくに津波への対応について、校区内を流れる豊川との関りを大切にした総合的な学習の時間や社会科の授業を実践している。

3年生では、消防団の方から、設備の説明や消防団の働きや役割についてお話をいただき、将来の下地校区の安全を担う校区民としての自覚を養っている。



防災学習の日（AED体験）

④ 頭をみがく～「聞く力・話す力を伸ばす」・「タブレットの活用」～

「かたる」「かかわる」「かわる」力に重点を置き、自分で考える子を育成するために、スピーチタイムを設け、話し合い活動の充実を図っている。例えば、校内のビオトープの水質検査をきっかけに一級河川豊川の上流・下流の見学を行った際には、きれいな川を受け継いでいきたい思いをタブレットの発信ツールを活用して新聞やプレゼンテーションで発表した。



豊川での水質調査